



玉川村立
玉川第一小学校

自ら取り組み、心豊かでたくましい子ども



令和3年3月12日
No. 32
文責:校長 酒井

学校だより

玉一っ子通信



感謝と別れ、その先には。。。

「6年生を送る会」「思い出の会」と卒業を前にしたイベントは、地区内の感染症の広がり、開催をどうするかという議論もありましたが、2つとも、感謝と別れを体現できる、子ども達の成長には欠かせない行事。今回も、方法を工夫しながらの開催となりました。

6年生を送る会は、密を避けるために前後半に分けての実施。各学年の発表が次々と進みます。前半は、1, 3, 5年。後半は、2, 4, 5年。5年生は、会の企画・運営・準備の責任者ですから当然前後半全てに参加します。発表の内容は、

- 1年生: 応援&エール・メダルのプレゼント
- 2年生: ダンス(感謝の舞!?) & 超豪華プレゼント
- 3年生: 時代劇クイズ(〇〇屋, そちも悪よの~)
- 4年生: サイレントクイズ&応援ソング
- 5年生: 思い出のスライドショー



<ありがとう6年生>



<かがやけ~6年生, オー!>



<6年生, ひかえおろう!>



<優しいかったね, 6年生>

5年生は、この時間緊張の中で過ごしました。「6年生に喜んでもらえる会にしたい。」「6年生に感謝の気持ちを伝えたい。」と、約1ヶ月前から全校生の中心となって準備を進めてきた5年生。会の成功を願い、各学年の発表を祈るような気持ちで見ていることでしょう。

送る会が終わった後の、緊張から開放された笑顔がそれを物語っていました。

6年生を送る会は、児童会行事の中で、最も大切なものです。それぞれの学年の発達段階はありますが、在校生が6年生に感謝の気持ちを伝える。伝え方は様々ですが、思いはどの子ども達も一緒。縦割り班で清掃の仕方を教わった6年生、登下校で手を引いてくれた6年生、昼休みに一緒に遊んでくれた6年生。思い出すかのようにかみしめるかのように、次々に感謝の言葉が並びます。6年生のなごやかな笑顔も印象的で、「あとは大丈夫だね。5年生よろしくね。」というメッセージが聞こえそうです。

6年生を送る会の次の日は「思い出の会」。6年生と教職員がこれまでの6年間に思いを馳せて、思い出を語り合うことが名目ですが、実質は、6年生に招待を受けた我々教職員が、楽しませていただいた会となりました。感謝することで、美しく別れることができます。美しい別れは、次のステージへの活力となります。卒業まで残り10日あまり。来週から、いよいよ卒業式の全体練習が始まります。

3・11 私たちはあの日を風化させない!

10年の月日はあっという間です。子ども達の半数近くが、震災後に生まれました。6年生もほとんど記憶にありません。だからこそ伝え継がなければいけないのです。あの日から学校のカリキュラムは大きく変わりました。どの学年も放射線についての学習をしますし、4年生の社会科では十分に時間をとって災害について学習します。

「風化」させないよう教え続けることが、体験した我々福島の教員の責務だと思っています。

※昨日の昼食時に放送で行った講話の内容を裏面に掲載します。話題にしていただけると幸いです。